

# SEIBU

和知  
西部地域の  
まちづくり通信

和知  
第6ブロック  
区長会編集

2009年  
(平成21年)  
12月17日発行

Vol.4

参加者の皆さんで共有した地域づくりへの思いを、「行動」へとつなげていく必要があります。新しいことを始めるには相当のエネルギーが必要です。負担が出てくるのも確かです。しかし、一人で立ち上がって、すべてを背負うわけではない、このワークショップをきっかけに、地域への思いを共有し、共に夢を描いたみんなで立ち上がり、そしてみんなで力を合わせて進んでいくのです。皆さん一人ひとりの心に芽生えた思いは、未来のふるさとの原点になるはず。さあ、実践に向けて行動を起こしましょう。

**地域づくりへの思いを  
「行動」へ。夢を描いた  
仲間で立ち上がろう。**

七月二十四日にスタートした第6ブロック(和知西部地域)の地域力向上会議が、十一月三十日に広野公民館で開催した第五回会議(ワークショップ)をもって終了。五つの地域づくりプランとそれらの活動を実践するための組織や活動推進のあり方を企画立案しました。(詳しい内容は、別冊「和知西部・地域づくりプラン」に収録しています。)

未来の西部地域をつくる五つのプランを「夢物語」で終わらせないためには、ワークショップを通じて



写真 © 第6ブロック地域力向上会議の参加者の皆さん。(広野公民館)

## 感想カード

参加者の皆さんの声(抜粋)

Impression

- 合計5回の話し合いに出させてもらって勉強になったし、西部もやっていき方によっては、まだまだ捨てたものではないと思えた。実行するには高いハードルが立ちふさがっていることと思うが、まずはやる気のある若い人が中心になって小さなことから始め、それをきっかけにして進んでいってほしい。各人、得意なことでも貢献できれば満足感、達成感もある。難しいことだが無理をせず楽しいことを実現したい。
- 思いも寄らない経験をさせていただきありがとうございました。高齢者も多くなり、人間関係が希薄になりつつあるように思います。みんなが協力できることが第一歩だと思います。だんだん大きなテーマに向かって第6ブロックが団結できるようになれば幸いです。
- 行政に対してお願いするばかりのことが多い中で、「自分たちで何ができるか」を考える良いきっかけになったのではないのでしょうか。自分では思いつかない大胆な意見もあり、実行に向けて前進すればいいですね。(自分自身は地域を見直すいい機会になりました。)
- 参加して良かった。やはり、今回のグループワークでも人とのつながりができたと思え、こういう事業を(住民主体で)行うことにより「やっぴいこう！」というエネルギーが生じると考える。若い人が少ない町だからこそ、世代間の協力・共同が大切であり、いろんなイベントを経て理解が深まると良い。
- 話し合いで終わってしまったのでは何の意味もない。ここに参加した者が集落に帰って、リーダーとして活動を起こす、一つ一つ身近なことから実践できるよう、がんばりたいと思う。
- 良いアイデアがいっぱい出た。みんなの場でアイデアが出たことが、まず第一歩だと思うし、まだまだ捨てたものでもないなあと思う。やれる範囲で、やれるときから、やれる人間で始めてみよう。
- 最初は「何から話をするのだろう」との思いから始まったのが、グループの中で企画案がいろいろ出て、ようやくやってみたいと思うことができあがった。ここまでできあがったものをなくしてしまうのは惜しいので、この会をあと数回は実施して、立案から実行に移せたらいいと思う。それには区長さんから区におおしてもらい、具体的に進めていかなければ、結局「絵に描いたもち」になってしまう。
- 最終回にふさわしい盛り上がりで話が進みまとめられました。どのグループも熱意あふれる発表で、「実現させなければ今までの話し合いが無駄になる」という思いになりました。「自分たちの地域は自分たちの力で！」という思いを大切に、実行委員会など積極的にかかわっていこうではありませんか。

## 今後の予定

Progress

多くの皆さんにご参加いただき、ありがとうございました。

回	日時	場所	テーマ	参加者数
第1回	7月24日	出野教育集会所	住民自治組織によるまちづくりとは	33人 (男/18 女/15)
第2回	9月8日	広野公民館	地域の魅力や課題を探そう	25人 (男/10 女/15)
第3回	10月8日	才原生活改善センター	自分たちでできることを考えよう	23人 (男/10 女/13)
第4回	11月4日	出野教育集会所	具体的な企画書をつくらう	16人 (男/9 女/7)
第5回	11月30日	広野公民館	活動実践や課題解決システムを考えよう	23人 (男/8 女/15)

## 編集後記

Editor's notes

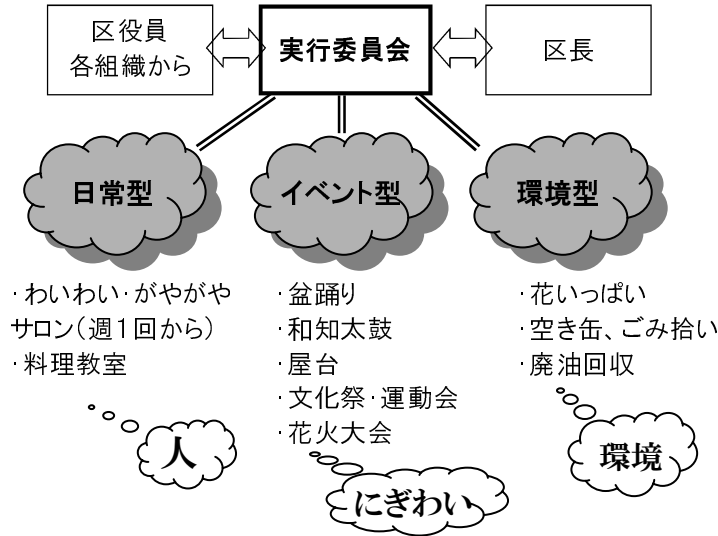
西部地域の地域力向上会議が終了。5回のワークショップの印象を一語で表すと「和」といったところでしょうか。どのグループもなごやかに話し合いが進み、笑顔が飛び交っていた様子が印象的です。参加者の皆さんが互いに努めてつくり上げたそんななごやかな雰囲気があったからこそ、5つもの地域づくりプランが誕生したのです。さあ、次はプランを実行するために、「行動」を起こすとき。立ち上がるときに不安や心配はつきものですが、思いを共有し、夢を描いた仲間となら立ち上がれるもの。西部の未来づくりへの一歩をみんなで踏み出そうではありませんか。

ウグイス・グループ

実行委員会を設立

- ◎やりたい人、お祭り好き ⇒公募(スタッフを募集)  
(決して「義務でない」ことが大切)
- ◎専門知識のある人  
・職人 ・宣伝がうまい人  
・パソコン、ホームページができる人 など
- ◎子育て世代の若者や中学・高校生
- ◎各区の調整役
- 資金調達**は・・・
- ◎フリーマーケット(祭りの一環で実施)で資金調達。
- ◎できれば各区負担金もお世話になる。
- ◎募金 など

アユ・グループ



ササユリ・グループ

実践に向けて種をまこう! プランをどう推進するか

- 各集落に持ち帰り、みんなの理解を得る。

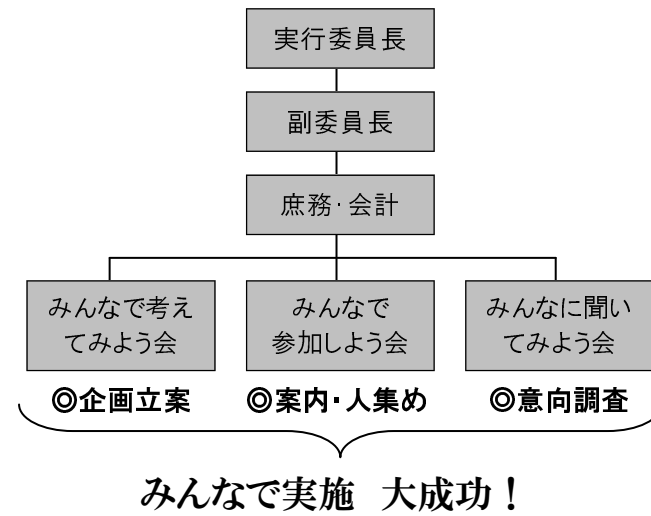
しかし、みんなの理解を得るのは難しい・・・。

このプランは『きっかけづくり』

まずは、地域で花作りができる人たちで実践。(理解者を増やしていく。)

他のグループが企画したプラン実行につなげていく!

クリ・グループ



夢の実現へ、実践のカタチを話し合う。



グループごとに企画した活動案とその実践方法を発表し、地域づくりへの思いを共有しました。

最終回のテーマ「活動の実践方法を考える」について、各グループが話し合った内容は上のとおりです。  
アユ・グループは、他のグループが立案した取り組みも含めたすべての企画実践を念頭に、活動の性質に応じて「日常型」「イベント型」「環境型」の三つの部署を設ける組織を提案。クリ・グループは、企画立案や案内・人集めなど、業務ごとに部署を設けて役割分担する組織を提案しました。ウグイス・グループは組織に必要な人材や資金調達方法などを検討。ササユリ・グループは、活動の推進方法を検討。自分たちが立案した「花いっぱい活動」を、他のすべての企画を実行するための「きっかけづくり」として位置づけ、「花作りから地域づくりへの理解者を増やしていこう」と提案しました。

第6ブロック 地域の目標 (将来ビジョン)	環境美化 多世代交流	環境美化・多世代交流 花いっぱい活動
	安心安全 地域コミュニティ	安心安全 安心安全・防災・地域のきずな 地域コミュニティ 施設を生かした地域コミュニティ向上
	地域活性化	地域資源を生かした活性化 蛭まつりの開催 ← NEW 若い力で魅力ある地域づくり 西部合同の祭りを開催

第6ブロック(才原、大簾、広野、出野、稲次)の第五回地域力向上会議(ワークショップ)を十一月三十日(月曜日)、広野公民館で行いました。最終回となるこの日のワークショップには、五集落から二十三人の住民の皆さんが参加。前回、グループごとに企画立案した取り組みを実践していくために必要になる組織体制のあり方や活動の推進方法などを話し合いました。詳しくは次ページをご覧ください。

**最終回でまとめた企画は、「蛭まつり」。**  
**西部の魅力を発信し、活性化へ。**

前回のワークショップでメンバーがそろわず、話し合いができなかったマツタケ・グループは今回、これまでの話し合いの中で出し合った地域の魅力・課題などを踏まえ、地域づくり活動を検討。地域資源(宝)を生かした地域活性化をテーマとして設定し、「蛭まつりの開催」を企画立案しました。その概要を下表のとおり紹介します。

**Group マツタケ** [テーマ]地域資源を生かした活性化(地域資源の発信)

**蛭まつりの開催**

**目的**  
地域にある魅力的な資源を発信し、西部地域を紹介し交流する。

**具体策**  
①蛭の見ごろ時間表をつくり、お知らせする。  
②普段は自由散策。  
③期間内に一日だけイベント開催(基本的に自分たちが楽しむ)。

和知地区第6ブロック  
地域力向上会議  
Workshop 詳細

活動を実践するための組織づくりを考える。

